

平成23年度JKA補助事業における “反省会のまとめ”

実施内容・成果及び今後予想される効果

(1) 実施内容

① 子供向け競技用自転車体験

競輪場や公共の場所などで行なわれる自転車イベントに対し、きちんと整備され、かつ子供達の体格に合った安全性の高い、通常では体験できない特注の小径レーサー等を短期に貸し出した。借上げの自転車にプラスして、補助金で製作した自転車を加えることにより、20インチ・24インチ・26インチのピストレーサー・ピストロードレーサー・アップハンドルのロードレーサーそれに27インチでジュニアに対応した小さなサイズのピストレーサーなど多様なサイズの競技用自転車が揃ったことで、成長期で体格に幅があるほとんどの年代の子供達に適応できるようになった。最初はアップハンドルのロードレーサーから入り、シングルフリーを使ったドロップハンドルのピストロードレーサーを経て、最終的には競技者と同じような固定ギヤを使ったピストレーサーまで体験できる。又、講師やメカニックを派遣することにより的確な指導や安全性を高める為イベントを成功に導いた。

② 専門スタッフの派遣協力及び教育・育成

ヒルクライム等上り下りが多いコースでは整備不良は危険であり事故に繋がる為、メカニックを派遣してスタート前の整備を徹底し、整備不良ゼロを目指し、安全性を高めた。

③ 自転車の乗り方教室

自転車に乗れない子供達に最初に必要なのはバランス感覚であり、スタッフと保護者等が一体となりペダルの付いていない幼児用ランニングバイクや二輪車を利用して初期段階を終え、その後自分の自転車や小径の自転車に挑戦することを実施した。

④ 不法投棄自転車の回収作業

河川などに捨てられた自転車類は、地方公共団体に依頼すれば回収され解決するが捨てる側への理解は得られない。一般市民が汗を流して環境保全に努めることにより子供達への教育及び市民のモラル向上に繋がると考え行動を起こした。

(2) 成果

① 子供向け競技用自転車体験

本格的な競技用自転車の多種多様なサイズが揃ったことで、成長期で体格に幅があるほとんどの年代の子供達に適応できるようになった。最初はアップハンドルのロードレーサーから入り、シングルフリーを使ったドロップハンドルのピストロードレーサーを経て、最終的には競技者と同じような固定ギヤを使ったピストレーサーまで体験できるようにしたので、比較的短時間でピストレーサーに乗れるようになる。20インチのピストレーサーは世界的にもほとんど例が無く、早い段階で体験してもらうことは今後の自転車競技普及には大きな成果が見込めると感じる。普段なかなか乗れないピストレーサー等を体験出来る教室として大変好評だった。又テクニカル講師やメカニックを配置したことにより質の高い、ポジションの設定や指導が行なわれ、安全に整備された自転車を使用出来たことは競技力向上や体験者の関心に繋がった。傍で実施している乗り方教室では体験している子供達を見ている幼児等がはやく自転車に乗れるようになり、競技用自転車の体験をしたいという意欲に繋がっているので乗り方教室と競技用自転車体験の併設はより普及に成果が増すと思った。

② 専門スタッフの派遣協力及び教育・育成

メカニック配備は参加者の安全性を高めることで安心して競技に望めるので競技力向上に繋がる。事故やトラブルを最小限に抑えることが出来た。参加者が安心して楽しめると好評だった。

③ 自転車の乗り方教室

自転車に乗れない子供達や一般市民が安全に苦無くスムーズに短時間で自転車に乗れるようになった。バランス感覚を養う為にランニングバイクやペダルのない自転車を使用したことは有益だった。又、子供は集中力がなく、すぐ飽きたりするがコースを工夫したり競走したりして意欲を絶やさないようにした。とにかく保護者からは感謝され我々も達成感があった。乗り方と同時にヘルメット着用等交通ルールの徹底やマナーの向上を小冊子を配って指導した。全員が最終段階まで進めたわけではないが、各人バランス感覚は格段に上達しており乗り方教室としては有意義であった。バランス感覚の習得という点では、すべてのスポーツの競技力向上に繋がると考えられる。

④ 不法投棄自転車の回収作業

あまりやらない河川に入っでの回収活動をした。幅広い年代での活動により交流が生まれ、活動後モラル向上を目指す活発な意見などが出た。また、今回の活動を知り次回参加したいとサイクリングクラブや学生等からの声が寄せられた。しかし、河川に入水しての危険性も否定できない。

(3) 今後予想される効果

① 子供向け競技用自転車体験

成長期の子供の体格や各々のレベルにあわせて自転車をセレクトできるようになったことや、的確に指導や整備してくれるスタッフを揃えている事は、走る子供達だけではなく、親にも評判が良く、競技としての自転車を意識される方が増えたようである。多くの子供達は順応が早く角度の付いた走路である競輪場での走行にも少しの練習で恐怖感なく走っている。早い時期から関心や興味を持ってもらい英才教育することが、競技人口の増加及び競技力向上に繋がる。

② 専門スタッフの派遣協力及び教育・育成

メカニックの配備は安全が確保され、競技力向上に繋がり、これからはより求められるものになる。特にメカニックの後進育成に繋がる教育・育成分野にも力を入れることになると益々自転車競技の普及に繋がる。

③ 自転車の乗り方教室

苦労無くスムーズに短時間で自転車に乗れたことが伝わり 乗れるようにしてほしいという問い合わせが増えている。乗り方教室で自転車に乗れるようになった子供達が傍でやっている競技用自転車体験でレベルアップすることが出来る環境だ。又交通ルールやマナーを指導したり、ヘルメットをかぶることが自然にできているので今後成長してからの効果にも期待したい。

④ 不法投棄の自転車の回収作業

実際に河川の水の中に入ると川の底にネット状の物があつたり、草や藻それにヘドロ化した泥で自転車の回収が思うように進まなかったが、河川などに不法投棄するとこんなに回収が大変なことになるということが、実際に活動したことにより思い知らされた。今後、活動をアピールすることにより、一般市民のモラル向上に繋がる。

日本が生んだ世界のスポーツ



これらの活動は、競輪の補助金を受けて実施しました。